



平成 28 年 4 月 14 日

独立行政法人国立科学博物館

常設展示コーナー「植物園のきのこの仲間」がオープン！！

国立科学博物館筑波実験植物園(園長 岩科 司)において、常設展示コーナー「植物園のきのこの仲間」がオープンしました。

当園では、世界でも稀な試みとして、四季を通して色々な「きのこの仲間」を観察できる常設展示コーナー「植物園のきのこの仲間」を 4 月 15 日(金)にオープンします。

季節によって発生するきのこは異なりますが、植物園全体で確認されている 200 種類以上のきのこのうち、年間を通すと 50 種類以上のきのこを本コーナーで見ることができます。また、当館の研究によって得られた調査・研究成果などを含む生物情報を発信するパネルによって、「きのこの仲間」を深く知ることができます。

つきましては、本件について、取材・記事の掲載など広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

※詳細については別紙をご参照ください。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部研究推進・管理課研究活動広報担当：西田 幸男

担当研究員：植物研究部多様性解析・保全グループ 國府方吾郎

菌類・藻類研究グループ 保坂健太郎

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998

E-mail: tbjimu@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP

<http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園HP

<http://www.tbg.kahaku.go.jp/>

「植物園のきのこの仲間」について

きのこはカビ・酵母・地衣類などと同じ菌類であって植物ではありません。

しかしきのこの多くは植物と密接な関係を持ちます。例えば枯木や落葉を分解して土に戻すのは、きのこの主要な役割です。マツ科・ブナ科・カバノキ科などは多くのきのこ菌根という共生関係を持ち、お互いに栄養をやり取りしています。

国立科学博物館では筑波実験植物園内において定期的な菌類調査を行っており、その知見を活かして世界の植物園でも稀な「植物園のきのこの仲間」を設けました。樹木ごとに異なるきのこが発生する様子、落ち葉や堆肥から生えるきのこ、など生態系ときのこの関係を観察してみてください。

また、公開中のHP「筑波実験植物園きのこ図鑑」を大幅にリニューアルし、植物園内の区画や季節ごとの検索が可能になりました。あわせて是非、お楽しみ下さい。

<http://www.kahaku.go.jp/research/db/botany/kinoco/>

〔観察できる「きのこの仲間」の例〕

スエヒロタケ

Schizophyllum commune (スエヒロタケ科)

生育環境：枯れ木、材木など

分布：日本全土・全世界

解説：大きさが2センチ足らずなので目立ちませんが、あらゆる環境で見ることができます。カサ表面は白っぽい剛毛に覆われていますが、ひっくり返すとヒダがあります。ヒダは他のきのことは異なり先端が縦に裂けた変わった形態を持ちます。



Pycnoporus coccineus (タマチヨレイタケ科)

生育環境：広葉樹の枯れ木上

分布：日本（主に本州南部）・世界の温帯～熱帯域

解説：鮮やかな朱色が目立つサルノコシカケ類です。カワラタケとは非常に近縁で、現在ではカワラタケと同属にする見解もあります。しかしなぜヒヒロタケがこのような鮮やかな色合いをするのかはわかっていません。



「植物園のきのこの仲間」の場所

